



各位

平成 19 年 5 月 11 日

会社名 株式会社ディー・ディー・エス
代表者 代表取締役社長 三吉野 健滋
(東証マザーズ・コード 3782)
問合せ先 I R 室長 鈴木 達也
電 話 052 - 533 - 1202
URL <http://www.dds.co.jp>

ロボット関連企業、株式会社ジャイロワークへの出資に関するお知らせ

ユビキタス社会の到来に向け、セキュリティ、モバイル、I T S など 5 大市場に挑戦を続ける株式会社ディー・ディー・エスは、ロボットに関するメディア編集、販売、開発、教育事業などを手がける株式会社ジャイロワークの実施する第三者割当増資を引受ることを決議し、資本提携を行うことにいたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 第三者割当増資の内容

- (1) 払込期日 平成 19 年 5 月中 (予定)
- (2) 1 株当たり払込金額 75,000 円
- (3) 当社の払込金額 約 2 千万円

2. 株式取得の背景

日本におけるロボットビジネスの環境

経済産業省は、2005年に発表した「新産業創造戦略2005」において、以下の条件に合致した7つの新産業分野の一つとして、「ロボット」を取り上げています。

- ・ 日本経済の将来の発展を支える戦略分野であること。
- ・ 国民ニーズが強いもの、社会ニーズが強いもので、今後潜在需要を掘り起こせる分野であること。
- ・ 単に最終財、サービスとしての市場だけでなく、素材・材料加工・部品など川下から川上まで、大企業から中堅・中小企業まで、大都市から地方まで、広範な広がりがあり、我が国が持つ産業集積の強みを活かせる分野であること。
- ・ 市場メカニズムによる競争のダイナミズムだけでは発展しにくい障壁や制約も抱えて

おり、成長の加速化と障害の除去のために、官民の一体的な取組を通じた総合的展開が求められている分野であること。

また、経済産業省では市場規模として、平成22年 1.8兆円、平成37年 6.2兆円と予測しており、中長期的に巨大な市場へと成長するものと期待されています。(出展：経済産業省次世代ロボットビジョン懇談会報告書、平成16年3月)

株式会社ジャイロワーク概要

所在地：大阪市西区江戸堀1-23-30 ダコタハウス2F

設立：平成17年2月14日

資本金：236百万円

事業内容：

- (1) マーケティング・販売事業
- (2) メディア・コンテンツ事業
- (3) ラーニング&エデュテイメント事業
- (4) IRT 知財バンク事業

「ロボットを通じて夢や希望そして未来を感じてもらいたい。」という考えから2006年10月に、名古屋市を中心街に「ロボットミュージアム in名古屋」を開設しました。人とロボットの歴史、様々なロボットの展示など、「見て」「触って」「楽しんで」、ロボットに対する理解を進めるためのスペースです。

ミュージアムに併設した世界中のロボットやおもちゃを集めた「ロボット未来デパートメント」は開設以来、海外の観光客を含めた来館者に人気を博しています。

IRT 知財バンク事業では、大学や研究室の持つ優れた技術を、企業において迅速に知財として活用することを目指しています。

(ロボット未来デパートメント)



ディー・ディー・エスの考え方

ユビキタス社会の到来に向け、セキュリティ、モバイル、ITSなど5大市場に挑戦を続ける株式会社ディー・ディー・エスは、ロボティクス分野を重点分野として位置付けています。

株式会社ジャイロワークには、ロボットに関する様々な情報が集積されており、今後ロボティクス分野での事業展開において、同社からノウハウ、アイデアを吸収するメリットは大きいと判断し、出資を決定いたしました。

3. 今後の見通し

前述のように、ロボティクス分野での積極的な事業展開を図ってまいります。今期の業績に与える影響は、現状では未定であり、今後明らかになり次第、随時発表してまいります。

【株式会社ディー・ディー・エスについて】

DDS は、指紋認証をはじめとする生体認証テクノロジーのリーディングカンパニーとして、確かなセキュリティシステムへの社会的ニーズに応え、設立以来、産学連携による技術移転を積極的に推進し、先進技術と市場ニーズを結ぶビジネスモデルの構築に注力してまいりました。

現在、当社が特に力を注いでいるのは、ユビキタス社会における次の5つの分野です。

- (1) 指紋認証をはじめとするセキュリティ
- (2) 通信カラオケ機器などのアミューズメント
- (3) 携帯電話などのモバイル
- (4) 自動車の情報化を担う ITS
- (5) 情報技術の集大成としてのロボット

大学など研究機関からの技術移転を実現し、眠っている技術シーズと市場ニーズを結びつけるビジョンのもとに、誰でもいつでもどこでも高品位なデジタルコミュニケーションが可能なユビキタス社会の実現に向けて、大きな付加価値を創造してまいります。

以上